



第38回 うけつごう 緑の大地  
羽ばたこう ぼくらの未来へ

# 全国育樹祭

10月12日(日)、「うけつごう緑の大地 羽ばたこう  
ぼくらの未来へ」をテーマに、第38回全国育樹祭が  
山形県金山町を会場に開催されました。

## 全国初となる2回目の開催

全国育樹祭は、健全で活力ある森林を育て、次の世代に引き継ぐことの大切さを伝えるために、昭和52年から毎年秋に開催されている国民的な緑の祭典です。

全国植樹祭で天皇后両陛下がお手植えされた樹木を皇族殿下がお手入れされるという育樹運動のシンポルの行事と、皇族殿下によるおことばや各種表彰等の式典行事のほか、参加者による育樹活動等の行事が行われています。

山形県内での育樹祭は昭和63年以来で、全国で初めて2回目の開催となりました。

## 豊かな森林を守り、活かし、次世代へ

約5000人が参加した式典では、主催者を代表して大会会長の山崎正昭参議院議長が「1人ひとりが積極的に森林に関わり、次世代に引き継ぐことの大切さ」を、吉村美栄子山形県知事が「森林を県民共通の財産として、連携しながら県民全体で支える森林づくり」を訴えて挨拶しました。

皇太子殿下にお言葉を頂いた後、森

林の育成や林業の発展に貢献した個人・団体を対象とした緑化功労者表彰や、全国から選ばれた緑の少年団へ西川公也農林水産大臣からみどりの贈呈が行われました。

森林を育て、次の世代に引き継ぐことを象徴するお手入れ行事では、平成14年の第53回全国植樹祭で天皇陛下がお手植えされたブナと、皇后陛下がお手植えされたヤマボウシの根元に皇太子殿下が肥料を施し、地元の金山杉を使ったくわでならしてお手入れされました。

その後、山形県の豊かな自然や東日本大震災からの復興の歩みを表現するメインテーマアトラクションや、林業後継者・森林ボランティアの代表による誓いのことば、大会宣言等が行われ、式典は幕を閉じました。

次回、第39回全国育樹祭は「手から手へ 豊かな緑で ぼくらの未来」をテーマに平成27年秋に岐阜県で開催される予定です。



## 皇太子殿下のおことば

挨拶に先立ち、本年の度重なる豪雨災害や御嶽山の噴火により亡くなられた方々に、心から哀悼の意を表しますとともに、ご遺族と被災された方々にお見舞いを申し上げます。

第38回全国育樹祭が全国各地から多くの参加者を迎え、こゝ山形県遊学の森において開催されることを喜ばしく思います。

平成14年にこの地で開催された第53回全国植樹祭から12年の歳月が経過し、天皇皇后両陛下がお手植えになりましたブナやヤマボウシなどの木々が、すくすくと力強く成長している姿に感慨を覚えます。

山形県では、昭和63年に第12回全国育樹祭が開催されており、本日の育樹祭は、全国の先駆けとなる2度目の開催となりますが、日本一の面積を誇るブナの天然林など、豊かな自然に抱かれた山形県で、多くの県民が森づくりに参加し、県民全体で支える森づくり運動が展開されていると聞き、大変心強く思います。

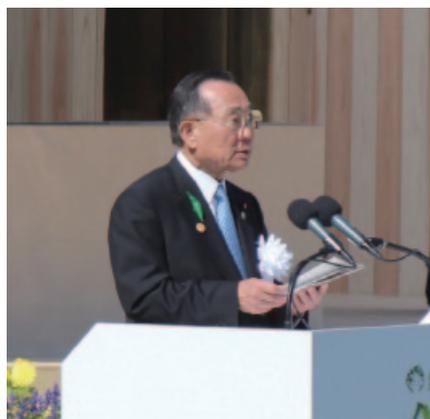
多くの先人の努力によって守り育てられてきた豊かで美しい森林は、国土の保全や水源の涵養、木材の生産など、人々の生活にとってかけがえのない役割を果たしています。また、最近では、地球温暖化の防止や生物多様性の保全など、地球環境の保全に対する期待もますます大きくなっています。

こうした森林の大切さを思うとき、これまで緑を守り、育んできた技術や文化を次の世代に引き継いでいくことは、極めて大切なことでもあります。

近年、林業関係者ばかりでなく、ボランティア団体や企業などによる社会貢献の一環として、森林整備活動の輪が広がりをを見せていると聞き、大変うれしく思います。

本日表彰を受けられる方々を始め、日頃からそれぞれの地域において、国土の緑化に尽力されている全国の皆さんに敬意を表するとともに、そうした活動が今後も多くの人々に支えられ、更に発展していくことを期待します。

終わりに、この大会のテーマである「うけつこう緑の大地 羽ばたこうぼくらの未来へ」にふさわしく、森林を守り育てる活動の輪が、こゝ山形の地から世界へ、そして未来へと大きく広がっていくことを願い、私の挨拶といたします。



主催者あいさつを行う山崎参議院議長



西川農林水産大臣による「みどりの贈呈」



オープニングアトラクション「花笠踊り」



「奥の細道」をテーマにしたメインアトラクション

第38回 うけつごう 緑の大地  
羽ばたこう ぼくらの未来へ

# 全国育樹祭

## 併催行事・記念行事

第38回全国育樹祭では、お手入れ、式典などのメイン行事のほかにも、様々な併催・記念行事が開催されました。

### 併催行事

#### 2014 育林交流集会

10月11日(土) 開催地：飯豊町いいでまち

山形県内外の林業関係者や大学・高校生、教育関係者、森林づくりを実践している企業やボランティア団体など約480人が参加し、講演会やパネルディスカッションのほか、大型の木造耐火建築物・南陽市新文化会館の建築見学会が行われました。



南陽市新文化会館の建築見学会



「山村資源の活用と里の暮らし・再興」をテーマにしたパネルディスカッション

#### 全国緑の少年団活動発表大会

10月11日(土) 開催地：鮭川村さけがわむら

全国から選出された緑の少年団員と山形県内の緑の少年団員など約350人が参加して、交流を深めました。発表会では、鮭川村立鮭川小学校の生徒による子ども歌舞伎や全国から選ばれた5つの少年団による活動発表のほか、みどりの奨励賞表彰、緑の少年団育成功労賞表彰などが行われました。

緑の少年団による活動発表



### 記念行事

#### 森林・林業・環境機械展示実演会

10月12日(日)～13日(祝) 開催地：新庄市しんじょうし

全国の林業機械メーカーによる最新の機械などを中心とした展示や実演が行われ、2日間で延べ約16,000人が訪れ、過去最高となりました。



フォワーダ(運搬)



ハーベスタ(伐倒・玉切り)



会場を視察する今井林野庁長官(左端)



スィングヤード(架線集材)

## 第38回全国育樹祭大会宣言

- 多様で健全な森林の整備や木材などの森林資源の幅広い利活用を一層推進し、「循環型社会」の実現を目指す。
- 森林の多面的機能に対する人々の認識・理解の深化を通じ、「国民参加の森林づくり」を一層推進する。
- 豊かな森林が未来へと確実に引き継がれるよう、次代の森林づくりを担う青少年の育成に一層努力する。

# 育樹祭開催地の風景から

第38回全国育樹祭の開催地を、少しだけご紹介します。

面積の約8割を森林が占める山形県金山町は、古くから林業の盛んな町で、藩政時代から植林が行われてきました。下段の写真は金山町有屋地区にある「大美輪の大杉」で、樹齢は約300年、大きなもので樹高約59mに及び、人工林としては日本最大級です。また、FSC森林認証を受けた森林でもあります。林内には木材チップが敷かれ、散策がしやすいよう整備がされています。

金山町では現在でもスギが盛んに生産されており、金山町では昭和60年度より「街並み景観条例」を制定し、木造在来工法で建てる金山住宅に独自の助成を行い、街並み整備に取り組みなど、木を使った町づくりを進めています。左の写真は町内にある「金山杉」を使った歩道橋で、CM撮影スポットになったこと



歩道橋



金山住宅

